大野市教育委員会たより

令和元年８月２１日発行　第１５号

発行　大野市教育委員会教育総務課
〒912-0086　大野市天神町 1-1
電話 0779-64-4827　Fax0779-69-9110
E-mail　kyoikusomu@city.fukui-ono.lg.jp

近年、情報化やグローバル化といった社会的変化が、私たちの予測を超えて進展しているなど、学校を取り巻く環境が大きく変化しています。

そのような中、大野市教育委員会では、将来を担う子どもたち一人一人が自分に対する「自信」を持って楽しく学校に通い、学力等の充実を図ることができるようにするために、より良い教育環境について、皆さまと一緒に考えていきたいと思います。ご理解とご協力をお願いいたします。

つきましては、先般、開催いたしました「教育環境に関する意見交換会」の結果概要について、お知らせします。

開催日：８月５日（月）午後２時～４時
場　所：学びの里「めいりん」講堂・ランチルーム
対象者：各小中学校教職員（出席者１１２人）
次第　・教育長挨拶
　　・１部　説明「大野市の教育について」
　　・２部　意見交換「大野市の教育環境について」　※１５グループに分かれて意見交換
　　議題①私たちが考える大野の教育について（力を入れたい教育、１学年のクラス数や１クラスの人数について、複式学級について、部活動について）
　　②学校再編について　　③その他

※「２部　意見交換」では、出席いただいた教職員の方々に１５のグループに分かれていただき、各グループで各議題に沿って意見交換を行いました。

※以下は、各グループの意見を議題ごとに分類し、集約した内容を掲載しています。

【力を入れたい教育について】

・思いやりを持ち、他人とうまく関わっていける。良好な人間関係を築いていける子どもを育てる。
・学校が安全な場所であり、誰もが安心して生活する場になるように相互を尊重する教育。
・学校としての特色・強みがある教育。
・ふるさとを愛する子どもを育てる。
・学力でアピール。学力向上に力を入れ、県外市外にアピール。
・誰がどこへ（学校）赴任しても同じ指導が提供できる環境づくり。
・子ども１人１人に力をつけられる教育を目指したい。
・自然の中で伸び伸びした教育を。
・子どもの心に寄り添えるような教育にしていきたい。
・知・徳・体の総合的な学力を養う教育。
・生育環境や国籍、文化などの差異を認められる生徒の育成。
・これからの社会で生きていける力をつける教育。
・どんな環境でも折れない心、人とうまくやっていくコミュニケーション力、人を思いやれる人間性。

・自然・交通の便・教育でアピールし、大野に住んでもらえる環境づくり。
・大野市の活性化に寄与するためのＡＩ社会を生き抜く教育、20 歳で起業を目指す教育。
・生徒同士、生徒・教員間の関わりが多くある現場。出来れば地域とも。
・主体的で深い学びを通して、自分で考えて行動できる子どもを育てる。
・大野の良さが十分に分かる人を育てる。グローバル化にも目を向けられる。
・子どもたちが自分の考えを出し合い、発展させていく学習ができる環境が深まる教育。
・多様な人間が意見を交わしながら物事を追求していく。（教育の多様性が必要）
・学級活動や児童会・生徒会の機能強化、児童会・生徒会主催のイベントの充実及び活性化。
・地域への働きかけをしながら、地域の特色や良さについて学ぶ地域教育の推進。
・英語教育において、小学校は表現力、中学校は表現力や文法、読解力などを育成する必要がある。
・プレゼン能力を高める教育が必要。そのために、基礎、基本の力の定着が必要である。

・個に合わせて、それぞれのペースで見てあげながら自信を深められる教育の推進。

【現在の教育環境について】
・中学校で免許のある専門教員がいないことは大きな問題。資料では美術、音楽、技術、家庭が取り上げられているが、それらの教科の方がむしろ必要。小学校でも音楽、体育の専門家は必要。
・保護者の希望に答えるのは大変である。
・学校の設備的なものが古くなり、費用面が心配。
・大規模校では教育環境が整っている。
・生徒同士の高め合いが不十分であるが、クラス替え等で対応が可能かも。
・部活動での問題（人数不足で大会等に参加が出来ない）が年々大きくなっている。
・教員にとって余裕が生まれてこない状況に陥っている。
・スクールバスは時間繰りが苦しい時がある。
・自校式の給食が美味しい。
・部活動で技術面などを指導出来る教員は良いが、出来ない教員は厳しい所がある。指導できる人が異動した場合、プレッシャーとなる部分がある。

【学校再編について】
・新しい施設ができることは魅力である。
・統合された地区で残したい行事をどうするか。
・送迎の駐車場が課題である。
・学校任せにせず、地域の資源でコミュニティ作りを考えられないか。
・今ある施設も有効に出来る再編。
・先生と子ども達の距離が近い関係が保たれた学校。
・個に応じたきめ細かな対応をするためには少人数が適正。
・学校がなくなると子どもがいなくなり、地域全体が衰退してしまう。（かつての大高移転→七間通りの衰退）
・再編は必要である。児童数が減少していく学校で勤務経験があるが、複式学級は良いが８人を切ると学び合いの質が低くなる。
・中学校でクラス数が少ないと免許外で指導する教諭がおり、生徒に専門的な指導をできない精神的なつらさがある。
・再編されて校数が中学校１、小学校２などとなったら子育て世代の教員はどこにも勤められない人が出てくる。（現在のルールでは親子が同じ学校にいられない）子育てで忙しいのに遠い勤務地になれば、家族が犠牲になり生活が充実しない。
・自尊感情を高め達成感を養うには様々な教育活動や部活も含めた諸活動が必要であり、それを支える教員の人材確保が必要。
・それぞれの学校でこれだけは大切にしたいものを持ち寄って再編を考える。
・子どもたちの目線で考えたい。小規模校はせめて中規模校に。子どもたちは多くの人と関わり合いたいはず。
・それぞれの学校の目に見えにくい隠れたカリキュラムに留意する。
・まちづくりと学校再編はセットで考えるべきである。学校再編をまちづくりの起爆剤とする。
・上庄地区の保育園、小学校、中学校の 15 年一貫教育を大野の特色とする。
・和泉地区で思い切ったカリキュラムを組み、今の学校になじめない児童生徒の受入などを行う。
・教育環境をという以前にまちづくりを考えなくては大野は人がいなくなる。なぜ子どもが減るのか、減るから再編、再編では益々減っていく。
・小学校がなくなると地区はなくなる。行政区分の見直しが必要である。
・校舎を新築して、他市からも転入して来るほどの教育環境の現状をアップした学校を作りたい。
・再編するとスクールバスの運行が複雑になり対応が難しくなる。どこまで、どのような時、どのような行事まで。
・教員数減について明言していなかったが我々はどこへ行くのか。
・学校の規模ではなく、自然豊かなところに学校を置くことも検討すべき。
・再編後も給食は自校方式を検討すべき。
・校区に小学校がないというのは、住もうという人も減ることにつながっていく。

・理想は１地域に１学校が必要。じゃないと過疎化が止まらない。
・教員の数が減るのは大野にとって大きな損。今の子どもたちにとっても、将来大人になる子どもにとってもメリットは少ない。
・再編により児童同士の関わりが増える。
・中学校２、小学校４を基本に検討するべきである。
・学校の位置は中心市街地である必要はない。
・和泉小中はあまりにも遠すぎる。
・学校は新築しなくてよい。
・学校の前に市全体で若い世代を増やす手立てをするとよい。
・バスルートを具体的に示し、実際何台程度必要になるのかを明らかにする必要がある。細かなルートで小さいバスも何台も配置すべきである。
・多くがバス通学になり遠距離になった時に、病気などで保護者の迎えが心配である。
・特別に支援が必要な児童生徒のクラスには支援員配置が必要。（本当は教員の増員が必要であるが）
・児童数が極端に少ない学校を残すことが果たして地元に求められているのか、あえて問いたい。
・音楽・体育・美術などの専門性のある教員を各学校に必ず配置すべき。
・現行の小規模校で良い教育が行われているのは当然。小規模でなくても良い教育は行われている。どちらが良いかという問題ではない。
・中学校は３校で、１校 200 人規模が良い。
・１校 50～100 人規模で学校数の維持をしてほしい。
・中学校は２校で和泉は別扱い。小学校は再編せずに、地域の衰退を進めないよう、地域と相談した上で決める。
・小学校は基本、徒歩圏内で地域にあってほしい。
・200～300 人の学校に。
・不登校など様々な困難な状況に置かれても対応できる環境。そのためには教員数が適切に確保されていることが必要。
・子どもたちが切磋琢磨できる環境がどの程度の規模なのか、大野に合わせた考察が必要で、再編は必要である。
・出来るだけ通学距離は短く、バランスのとれた距離で。
・段階的に再編を進めて欲しい。
・再編時期は地域ごとの通学手段が確保できてからが良い。
・中学校は部活動の練習試合等を考えると２校はあった方が良い。小学校５、６校が望ましいと思う。
・大規模校、小規模校のそれぞれの持つ課題が違う。再編後の職員数はどうなるのか。
・１クラス２人担任制など子ども１人１人に細かく目配りが出来るようにして欲しい。
・再編後の児童生徒のケアが大切である。
・再編によって地域のつながりが薄くならないように地域の人が地域の子どもを見守る、地域の行事などを伝えていくことはなくならないようにしてほしい。
・スクールバスであっても小学校１、２年に登下校の負担はある。
・教職員の数は１校、30 人までが良い。多すぎるとまとまらない。先生の多忙化解消のため人員は手厚くしてほしい。
・中学校の再編は早期に。
・小規模校の意見として早く再編してほしい。
・大人の都合で再編でもめてる時間が長く子どもが可哀想である。
・中学校１校にすると魅力がなくなる。
・児童の安全安心を確保するための見守りボランティアの協力は今後も必要であり、公民館と連携していく必要がある。
・地域学習（ふるさと学習）を継続するために、公民館との連携が必要である。
・大野のスポーツを守るなど特色ある学校づくりが必要である。
・再編された後も各地域の行事、伝統が生かせる場は必須である。
・再編でクラス数や教員が減るだけなら何も変わらない。教員数はそのままして手厚い指導をすることで大野の教育の魅力が高まる。
・スキー、クロスカントリー、駅伝など得意とする学校や文化系に力を入れる学校など特色ある学校があっても良い。
・子どもたちと教職員が共に安心して学び合える環境にしてほしい。

・教職員も子どもも学び合いに必要な人数の確保をしてほしい。
・中学校２校、小学校３校が良い。
・地域から学校がなくなることは、今後、その地域に住みたいという若い人がいなくなっていくのではないか。人口が減っている現状は分かるが何とか少しでも多く残していけないものかと思う。大野市として学校再編の前に少子化対策はどう考えているのだろう。
・部活動では離れた地域への配慮が必要である。
・スクールバス登校になったら少しでも遅刻すると多くの人に迷惑になり、通うのが苦になる場合がある。
・スクールバスは子どもの負担が大きく、時間の調整が大変である。
・中学校は全教科、専門教員が指導することが望ましい。小中学校は日々の状態をとらえての継続的な指導が大切である。よって、中学校は２校が適切でないかと考える。開成中、陽明中の校舎を利用すれば十分と考える。
・学校を減らすだけでなく、義務教育学校などいろいろな発想を考えて欲しい。
・遠隔システムを活用すべきである。
・遠い地域の子どもはバスになるだろうが、遅れたりしないか心配である。
・学校の適正規模と今後の子どもの人数、市の財政事情などいろいろな判断材料の基に再編を考えていくことが大切である。
・再編は避けられないと思う。中学校が１校になっても各学年 300 人はいないのではないか。
・早めに、今、複式学級の学校が近くの学校と統合すべきと思う。
・すでにクラスで１人などの小規模校は再編を急ぐべきである。
・再編は議論を重ね、時間をかける必要がある。
・小学校と中学校の再編の時期をずらして、計画を策定してもよいのではないか。
・放課後に輝く子どもをどうするかが課題である。
・地域に１つは学校を残しておくべきである。
・中規模の学校なら専門の先生方も配置できる。
・大規模になることへの弊害として、子ども１人１人に役割を与えづらく埋没する可能性がある。不登校などの生徒指導上の問題がある。
・乾側小の低学年の複式学級が各学年１人の状況を見ると再編も視野に入った。しかし再編の規模までは不明。

【１学年のクラス数と１クラスの人数について】

・小学校は１クラス 20 人位で学年で 40 人位（２クラス）。
・学年当たり２クラス以上にし担任の負担軽減を図る。授業準備にかけられる時間の確保を。
・１クラスの人数は 20～25 人ぐらいが望ましい。少なすぎても多様な意見交流にならないし、30 人を超えると発言する一部の児童に頼りがちになる。
・１学年２クラス以上は設けた方が良い。複数教員で業務を分担したり、教育方針を相談し合える。これから若い先生が増えていくが１人で学年を担当するのは大変。
・児童同士で磨き合っていける人数。
・自分の考え、友だちとの伝え合い、多様な考えの中で考えを深められるような児童の数。
・30 人を超えると担任１人では厳しいため、１クラス 30 名弱が良い。
・生徒理解、学力向上、活躍の場を考えると少人数の良さはあり、１クラス 20 名前後が良い。
・小学校は１クラス 20 人くらい、中学校は 25 人くらいで１学年３～４クラス。
・多様な子どもが集まるので担任＋アルファの人数がいると良い。特に小学校は必要である。
・中学校は１学級 25 人程度で、１学年５～７クラスが良い。専門教員が２人以上いると有難い。
・１学年のクラス数は複数ある方が望ましい。教員もいろいろと相談できるし、教員数が増えることで校務分掌の負担が減り、研究体制も整う。

・小学校は２～３クラスで中学校は４～５クラスが良い。
・１クラスの人数は 20～30 人の間でベストは 24 人。いろいろなグループが組めるし、体育でサッカーも出来る。
・１学年複数クラスで、１クラス 20 人ぐらいの方が、話し合いもでき仲間も作れる。
・高校や社会を見据えるとともに、コミュニケーション能力を育成するために中学校は２クラス以上が良い。
・１学年複数あった方が教員で学年の仕事を分担できる。教員において男と女、若手とベテランの組合せを作ることができる。
・人と人がつながる力をつけるには少人数では成り立たない。
・12 から 13 人の少人数授業の方が１人１人のきめ細かな教育が学習面で支援できる。
・16 から 28 人が良い。複式学級は駄目である。
・複式学級はメリットもあるが、１学年１人での学びは難しい。
・クラス数と１学年の人数は時と場で違う。１人１人への支援は 10 人以下で良いが、話し合いをする時は 20 人程度が必要である。
・１クラスの人数は大きな問題ではない。
・気がかりな児童生徒に配慮するために１クラスは少人数が良い。
・保護者のニーズが多様化しており、少人数を好まれている方もいる。
・１クラスの人数は 20 から 30 人までと考える。最近、個別対応を必要と感じる子どもが増えているように思う。30 人以上になるとかなり対応が厳しいと思う。20 人以上というのは、行事や体育、学級集団を考えている。
・今の基準である 30 人より少ないのでちょうど良い。10 人未満とかは未経験でちょっと分からない。
・中学校はクラス数を多くして教科の教員が多い方が良い。
・小学校は１クラスで、中学校は２クラスぐらい。
・小中学校とも１クラスだとクラス替えができず不便。３クラスより多いと学年で動きづらい。
・中学校は５から６クラスが良い。
・小学校は３クラスくらい、中学校は４クラスまで。
・小学校は２クラス以上、中学校は４クラス以上が良い。

・２クラス以上が望ましいが１クラスでも担任によっては問題ないと思う。新採用が１人では大変なので、そのようにならないように配置するなどの配慮は必要である。
・学級数が減って教員などの定数が減ることになるが、市独自の教員、講師、支援員をこれまで以上に配置してほしい。

【複式学級について】
・複式学級には支援員を配置するべきである。
・複式は学力の心配が大きくなる。個別学習も増える。
・複式が解消できるぐらい（１クラス 10 人以上）の環境であれば、今の大野市の教育環境はとても良い。
・複式学級は教員がついて教える時間が半分になるので単式学級が良いと思う。
・少人数のクラスは子どもの様子がよく分かりますが学び合う時の意見があまり出ない。
・複式学級は意見に広がりが出ないので解消すべきである。
・複式学級は出来ればない方が良い。子どもがリーダを努めることで伸びる側面もあるが少なくなるとリーダーにもなれなくなる。また教員の負担が大きい。
・複式学級よりも小中一貫校を検討した方が良い。学習内容のＡ年度Ｂ年度採用は子どもが可哀想。

【部活について】
・部活動の適正な規模が必要。中学校２校。
・部活動は社会教育に任せて気にしない。
・部活動指導員の積極的な活用を行い、中学校教員の負担を軽減。
・中学校２校にし部活を男女で分ける。例：Ａ中学校は男バスケ、女バレー、男卓球、女バドミントン、Ｂ中学校に女バ

スケ、男バレー、女卓球、男バドミントンなど。
・学社融合も含めた部活動指導の柔軟化が必要である。
・ある程度、子どもたちが選択できるぐらいの数があると良い。教員は２人以上の体制で。
・部活動は必要だが外部に任すことができる種目については、外部に任せていく。
・機能しなくなるので中学校の人数が少ないこと考えないといけないが部活動だけで統廃合は決められないと思う。
・再編で人数が増えたら、部活、金管クラブなどの指導が大変になるのでは。
・みんスポのような市全体で取り組める部活動にして、移動はスクールバスを利用する。
・部活動で選択肢の幅があまりにも少ないのは駄目である。複数校で合同でというのも移動時間の制約が出てやりにくい。
・大野市の中学校の枠を解いて部活動を運営するシステムを新しく作る。
・選べた方が良いと思うがそこまでしたいものがあれば、校区外通学をするべきで、基本は学校人数でクラブ数を決める。
・大野市で管理し、種目を多くする。
・部の数はなるべくたくさん作り、大人数だからこそ出来るものを。
・部活にこだわらず、校外でもやりたい活動が出来る環境が整うと良いと思う。
・教員以外も含んで指導者の専門性を向上し、子どもに部活動の選択の幅を広げてほしい。
・部活動の学校の枠を解くとともに、中体連の運営の見直しを図る。
・学校単位でなく地区の活動として取り組む方が良い。
・部活動については考えなくて良い。
・部活動と生徒指導はイコールではない。
・集団での部活が大事である。

【不登校対策について】
・中学校において専門教員１名、支援員３名以上の確保が必要である。
・不登校児童・生徒に対応できる教室環境が必要である。
・不登校対応できるハードとスタッフの増員が必要である。
・不登校に対応できるクラスが各学年に必要。例えば通級指導クラスなど。教員も増員が必要。
・不登校になっている子、なりそうな子が近場だと家庭訪問が出来る。地域に根ざした支援員がいると良い。
・学校を残しておきながら、センター校的な所への交流はできないか。

【その他】
・大野市として子どもを増やす施策を。
・各学年にタブレット配置とかテレビ配置と言っても学年１クラスならずっと使えるが、複数クラスなら１週間交替など決めないと使えなく、この差は大きい。
・自分はこの先、何年後、どこで働いているのかな。
・ＡＩ等の発展に追いつき対応できるまちづくりをして欲しい。ＡＩがあれば田舎でも出来ることはある。ＡＩで出来ない部分を大切にする町や教育をしてほしい。
・おいしく飲める水、安心して住める環境を生かしてほしい。
・我が子を大野で育てさせていただきありがたく嬉しく思っている。しかし、３人とも大野に現在いない。理由は働く場が少ないからである。学校が少なくなると益々住む人が減るのではないでしょうか。
・初任者が少ない分、全員が市教委の方の指導を受けられるのは有難い。
・去年よりも学習会や水泳教室がなくなっているので、働き方改革の流れが少しは見受けられた。

【自由意見】
※多くの教職員の方々にご参加いただき、１人１人から直接ご意見をお聞き出来ませんでしたので、同日に実施しました「将来の教育環境に関するアンケート」の問１２：自由意見欄の抽出した意見を掲載いたします。

・学校関係者は概要が決まってからが、やらねばならないことがたくさんある。学校、地域、行政と十分な検討、

協議をして、円滑に学校をスタートさせるための時間が確保されなければならないと思う。
・教員の異動はどうなるのか。新しい学校の伝統はない、特色はない、地域もない、人がいない、でも子どもだけ多い、地域の協力はないということにならないか。
・今日のは教員同士の意見交換会。これは組合がすべきこと。教育委員会と教員の意見交換の場を設けてほしい。
・児童センターの利用がしやすい、子ども園の給食化など、子育てに安心できる制度がとてもありがたい、という大野の良さをさらに発達させて、それをアピールしてはどうか。
・再編の理念（考え方）を定めるべきだと思います。（例）「地域を愛する人を育成するための再編」など大前提の考え方をはっきりさせた方が考えやすいのではないか。
・学校教育予算を増やして、職員数が減らないよう市で人を確保してほしい。
・若い世代が安心して住み、子どもを通わせたいと思う学校にしていきたい。
・学校再編は当初の計画通り進めてほしい（他の市町に比べて実行が遅い）。今、小中学校の子どもを抱える親の立場として宙ぶらりんの状態である。
・私は、外部から新採用で和泉に来ました。和泉での地域と深く密着した教育にとてもびっくりすると同時に、とても素晴らしいものだと感じた。この温かさがなくなってしまわないといいなあと思う。
・小学校は地域に残してほしい。
・大野の良さは何か、大野の教育の良さ、特徴は何かを考えると、地域とのつながり、少人数での手厚い指導ではないかと思う。それをなくさないようにしないと、人口減少、少子化は変わらないと思う。魅力ある大野の教育を大切にしてほしい。
・目新しさや、よその時事・流行に惑わされず、目指すべき将来を目指してほしい。
・再編による教職員の定数減により、市外へ異動しなくてはいけないような状況をなるべく少なくしてほしい。
・大野市型の教育を考え、広い視野・視点で考えていかなくてはいけないと感じた。
・大野市の教員（若い方々）の思い（不安）を解消してあげてほしい。教員数が減れば教育の質は下がる（落ちる）。
・人口減少は避けられないので、住んでもらえる努力が必要である。
・せめて、中学校では免許外を教える必要がないように教員を配置したり、小学校にも外国語教師を配置したりを望みます。
・いろいろな立場の人達から様々な意見を集められて、本当にご苦労様です。ただ、そこから、どうやってなるべくみんなが納得できるような案にしぼるのか…。
・市は様々な視点で考えて提案していると思う。もっと肯定的に話を聞いてはどうか。目の前の子どもたちの今はどんどん過ぎてしまっている。
・とにかく早く再編をやってほしい。
・教育環境とともに人の住みやすい町づくりが必要である。大野の人は自分が満足していれば興味をもたない？動かないような気がする。大野の全年代の全業種の人をまきこんだ議論を！

業務等でお忙しい中、ご参加いただきました教職員の皆さま、ありがとうございました。紙面の関係上、割愛している部分がございます。ご了承をお願いします。本たよりは、大野市ホームページにも掲載を予定しています。